

「(仮称) 公園案内棟/喫茶/版画工房/アート体験棟」基本計画(案)に対するご意見

番号	ご意見の種類	ご意見の概要	市の考え方
1	将来への期待	<ul style="list-style-type: none"> ・ 芹ヶ谷公園がもっと市民の皆さんの憩いの場となり、版画美術館や(仮)工芸美術館そして、体験工房が一体となり、そこから世界に文化の発信ができることで、町田に住んでいる誇りとポリシーを誰もが持てるまちづくり、に大いに期待しております。体験工房は単に体験だけでなく、工芸の専門家共に、作り手の手わざを見せて頂く機会を増やして、企画展ともコラボする施設が大事かとおもう。 ・ 工芸や版画の心を伝えることが、新しい文化を時代ごとに積み重ねていくことだと思う。 	<p>芹ヶ谷公園"芸術の杜"パークミュージアムから、文化芸術を発信していくことを目指しております。工房につきましても、工芸の専門家や企画展、地域の工房等とコラボレーションしながら運営してまいります。ご意見は運営計画等の参考にさせていただきます。</p>
2	理念・ビジョン	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際版画美術館を大切にしたい。 ・ 文化のある町として活性化していくこと自体はありがたいことと思っている。 ・ 芹が谷公園で版画美術館の機能を生かして、何らかの創作の拠点を作りたい、との考えを全否定するつもりはない。 	<p>国際版画美術館は、開館以来の役割「鑑賞」「創作」「発表」の機能を一体的に提供するという役割を担ってきました。版画に加えてガラス等の制作もできる新しい工房と二つの専門美術館を密接に連携させることで、これまでの役割をより発展・継承させていきます。</p>

3	(仮称) 公園案内棟/喫茶/版画工房/アート体験棟での活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「ガラスフュージング」が体験できる工房を、と思う。ガラスフュージングは、普通では作ることの出来ないので、ガラスで作る事の楽しさを味わって貰え、子どもの体験出来る工作で好評である。 ・物を作る楽しさは版画、ガラス、陶芸だけでなく、様々な種類の体験の場と機会を用意することで、個人個人がそれぞれの興味関心やタイミングで何をするかを選び、体験できることが大切である。 ・様々な種類の体験の場と機会を用意し、個人個人がそれぞれの興味関心やタイミングで何をするかを選び、体験できることが大切である。そのための設備のほか、公園内の自然を開発するネイチャーセンターの機能、パークマネージャーの配置、公園応援団のようなボランティア等の機能を提案する。 ・新たに設置されるスペースに、町田の縄文を常設し紹介するスペースを作っていただきたい。町田市の縄文文化は世界的にも評価が高く、誇るべき文化財産である。そのことをもっと外に向けてアピールするべきだと思っている。 	<p>工芸体験については、アート体験棟に電気炉を設置する予定であり、ガラスフュージングやパート・ド・ヴェールを含むキルンワーク(電気炉を使用する技法)の講座が行えるようになる計画です。</p> <p>その他、いただいたご意見を運営計画等への参考及び反映するなどしながら進めて参ります。</p>
4	基本計画の作り方	<ul style="list-style-type: none"> ・「基本計画概要」といえども建物を作るため、建物の配置、規模、フロア構成など、もう少し市民が具体的な建物のイメージをもてる資料を提示して意見を求めるべきだと思う。 	<p>建物の諸室の構成やフロア構成等につきましては、基本設計の段階において、ご意見等を伺い進めていく予定です。</p>
5	建設地	<ul style="list-style-type: none"> ・計画地は土砂災害特別警戒区域、と土砂災害警戒区域に指定されている敷地であるため、周辺環境への配慮の仕方や防災対策等を示す必要があると思う。 ・坂地に建物が建つことについての安全性を危惧している。 	<p>また、建設予定地の安全性を確保するための検討も行ってまいります。</p>

6	自然・緑	<ul style="list-style-type: none"> ・建設する場所の自然調査を東京都の条例に基づき実施して欲しい。 ・この計画によってどれだけの緑が失われるのだからと不安だ。 ・木を切る場合は最低限の考慮をして欲しい。 	<p>「東京における自然の保護と回復に関する条例」に基づき、進めて参ります。</p> <p>整備にあたり、緑豊かな公園環境に馴染むように建物全体が建ち現れるよう、配慮をいたします。</p>
7	(仮称) 公園案内棟/喫茶/版画工房/アート体験棟の設計内容	<ul style="list-style-type: none"> ・工房・アトリエは、1階(鑑賞→制作見学の動線を守る)にして欲しい。 ・現在の工房は北面しているが、今後は南面する。見学廊下から光が差し込んで制作が出来ない。 ・喫茶軽食は2階。ひさしの上はカフェテラスにすればよい。2階に他に汎用室(会議、集会、アトリエが塞がっている時の講座など) ・3階に管理部署設備、規模は現工房・アトリエを下回らぬこと ・ユニバーサルデザインに配慮してほしい ・デザインブックに記載された様々なアイデアやビジョンを実現するためには、施設や設備の内容が不十分である。 ・自由度の高い部屋を複数作り、様々な体験に対応できる施設にして欲しい。 	<p>ご意見は、今後、基本設計を進めていく中で、参考にさせていただきます。</p>
8	市民等意見・市民との話し合い	<ul style="list-style-type: none"> ・施設のビジョンや活動のイメージ、施設の考え方はもちろん大切だが、具体的な建築計画を示した上で、市民の意見を聞きながら、基本設計をまとめてほしい。 ・地元住民、工房利用者との話し合いはしっかり行われているのか。 ・専門家の方々も含め多くの議論が必要と思われる、今後も市民の意見を聞きながら熟考を重ねる必要があると思う。 	<p>これまでも専門家の方や工房利用者、地元住民の方のご意見を聞きながら進めてまいりました。今後行う、基本設計の段階においてもご意見等を伺いながら進めていく予定です。</p>

9	工房移転の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・別の場所に移設する必要があるのか。銅版画を作る際には有毒な廃液が出るため、わざわざ移設するのは危険を伴う。今のままの工房の存続を求める。 ・版画工房は銅版画も作ることができる本格的な設備が整っており、市外からの利用者もあり、大変評価が高い工房である。それをどうして別の場所に移設する必要があるのか。 ・版画工房とアトリエを移転することに反対。移転しなければ、費用と工期を縮小でき、版画美術館の魅力を減じないため。また、版画のことは版画美術館、その他はアート体験棟と、施設ごとのカラーを明確にするため。 	<p>建築物の整備及び移設につきましては、安心・安全を重視し、基本設計において、検討を進めて参ります</p> <p>また、美術館内である現在の版画美術館内の工房では、ガラスや陶磁など新たな分野への拡充に対応ができないため、現在の版画工房をご利用の方はもとより、より多くの方に自ら創作するきっかけや楽しさを提供するために、新たな場（工房）を整備します。</p> <p>カフェ・レストランについても、美術館とは別棟とすることで対応できる自由度が増す等、今後の運営やサービスのあり方も踏まえ総合的に検討した結果、機能の移転を行うこととしました。</p>
10	工事について	<ul style="list-style-type: none"> ・工芸館新設、版画美術改修、公園案内棟/喫茶 /工房・アート体験棟建設、新規の外部EV新設での工事車両はどこを通過し、その程度の車両が公園の周りの近隣住宅地を通過するか示してください。 	<p>工事車両の通過動線や工事の実施方法などについては、工事実施前に行う工事説明会でお知らせしてまいります。</p>

その他のご意見

- 収蔵する美術品を購入してまでして進める美術館の建設は、税金を遣うのが目的にしかなくなっておらず、危険な傾斜地に無理に建設するのは今後に大きな課題を残すだけで、全く持って無駄以外の何物でもない。
- 版画美術館の改修や駐車場の整備を優先的に進めるのが重要。
- 高ヶ坂交差点付近の交通網の渋滞を道路整備で解消してほしい。
- 版美と工芸美術館を結ぶエレベーターとブリッジについて、費用対効果や公園内の景観を考えても反対。
- 芹が谷公園のすぐ近くに八幡平遺跡や牢場遺跡などがある。町田市を売り込みたいのなら、縄文土器の展示をして縄文をアピールした方がいいと思う。
- アートに出会うという事はどういうことなのか、と考えたとき、さまざまな個性を持った人が無理なくアートに出会える機会を作ることが肝要だと考える。